

学園関係者聞き取り調査

大東文化歴史資料館・大東アーカイブスでは、創立百年史編纂事業の開始に先駆けて、学園関係者の聞き取り調査（インタビュー）を開始しました。これは、卒業生をはじめとして、過去に本学で教鞭を執られた先生方や学校経営・管理を行われた職員の方々など、これまで付設校を含む大東文化学園に関わってこられた多くの皆さん方の貴重なお話を記録し、後世へ残していこうという活動です。

第1回目の聞き取り調査は、神戸在住の田中稔さん（昭和19年本科二部卒業）をお願いをし、2006（平成18）年3月14日、ホテルクラウンプラザ神戸に於いて行いました。

第1回聞き取り調査報告

田中稔先生をお訪ねして

今回、第1回目となる聞き取り調査を快く引き受けて下さった田中稔先生のお話を伺うべく、蔵中しのぶ歴史資料館運営委員（外国語学部日本語学科教授）と二人、早春の神戸を訪れました。

田中先生は、漢学を専門としつつ近代史の分野まで幅広く研究されている方で、無窮会の紀要『東洋文化』にも、現在まで幾つもの論稿を発表されています。また、長年にわたり高校で教鞭を執られてこれ、今も現役の予備校講師をなさっています。神戸出身の蔵中委員とは旧知の仲ということもあり、今回のインタビューに際して大東文化学院在学時代の思い出を事前に綴ってわざわざ当日持参して下さるなど、きめ細やかなご配慮をいただきました。

第1回目のインタビューということで、とにかく自由にお話くださいとお申しましたが、田中先生のお話は、“どうして大東文化学院への進学を選んだのか”といったことから始まり、学院時代にお世話になった恩師の心に残る言葉や学院時代に学んだこと、数多くの大東文化学院出身の方々との出会いと別れなど、多岐にわたるとても興味深い内容でした。特に、田中先生は戦禍の最も激しくなった時期の入学だったことから、臨時非常措置によって修業年限の短縮を余儀なくされたというご経験をお持ちでした。戦時下の教育体制の変化が現場において、特に学びを求めて進学した学生に対し具体的にどういった影響を与えたのか、まさに当事者からお話を伺えるまたとない機会となりました。



今回伺うことのできたお話から、大東文化の歴史としてはもちろんのこと、同時にこの一つの事例を通して日本の高等教育史の一側面を明らかにするといった意味においても大きな成果を得ることができたと思います。また、田中先生からは、大東文化学院出身で田中先生の恩師にあたられる森戸馨先生の追憶集『留魂録』や、ご自身の卒業証、教員免許状をはじめとした貴重な品々をご寄贈いただきました。ご協力くださった田中稔先生には、この場を借りて改めて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

（大東文化歴史資料館 浅沼 薫奈）



～大東文化学園に関する史資料を集めています～

- ・写真や映像 ・各種機関誌や新聞 ・講義ノート ・書簡類
- ・記念品（卒入学時のものや部活動サークル関連のものなど）
- ・学生時代の制服制帽 ・学校行事や学生生活に関する資料 等

大東文化歴史資料館では、上記のようなもののほか、各種学園関係資料を探しています。本学を卒業された方、かつて教鞭をとっていらした先生方や退職された職員の方々、そのほか関係者の皆様のご協力を広くお願いしています。ご提供いただけたら、大東文化歴史資料館へ是非ご連絡ください。

